

芦屋のみちの木

みんなで育てるみんなの街路樹



一般的に道路に植えられている樹木のことを街路樹と呼びます。

芦屋川のマツ、さくら通りのサクラなどが代表的ですが、ほかにも、背丈の低いツツジやアジサイなどの「中木」「低木」があり、芦屋市でもさまざまな街路樹が植えられています。

このパンフレットでは街路樹の役割や種類、街路樹の保全に向けた芦屋市の取り組みについて紹介します。

平成 24 年
芦屋市都市環境部公園緑地課

1. 街路樹の効果と役割

まちでよく見かける街路樹。どうして、植えられているのか考えたことはありますか？
その効果や役割には次のようなものがあります。

○美しい景観をつくります

立ち並ぶ樹木がまちなみを整えます。また、まちに季節感を与えます。

○生活環境を守ります

騒音や排ガスによる大気汚染をやわらげます。

○歩きやすく、快適な歩行空間をつくります

木陰をつくり直射日光を防ぎます。また、温度上昇をやわらげ、車道からのほこりを防ぎます。

○安全を確保します

歩行者と車を空間的に分離します。また、視線を誘導し、車の歩道への乗上げを防ぎます。

○まちの自然を保全します

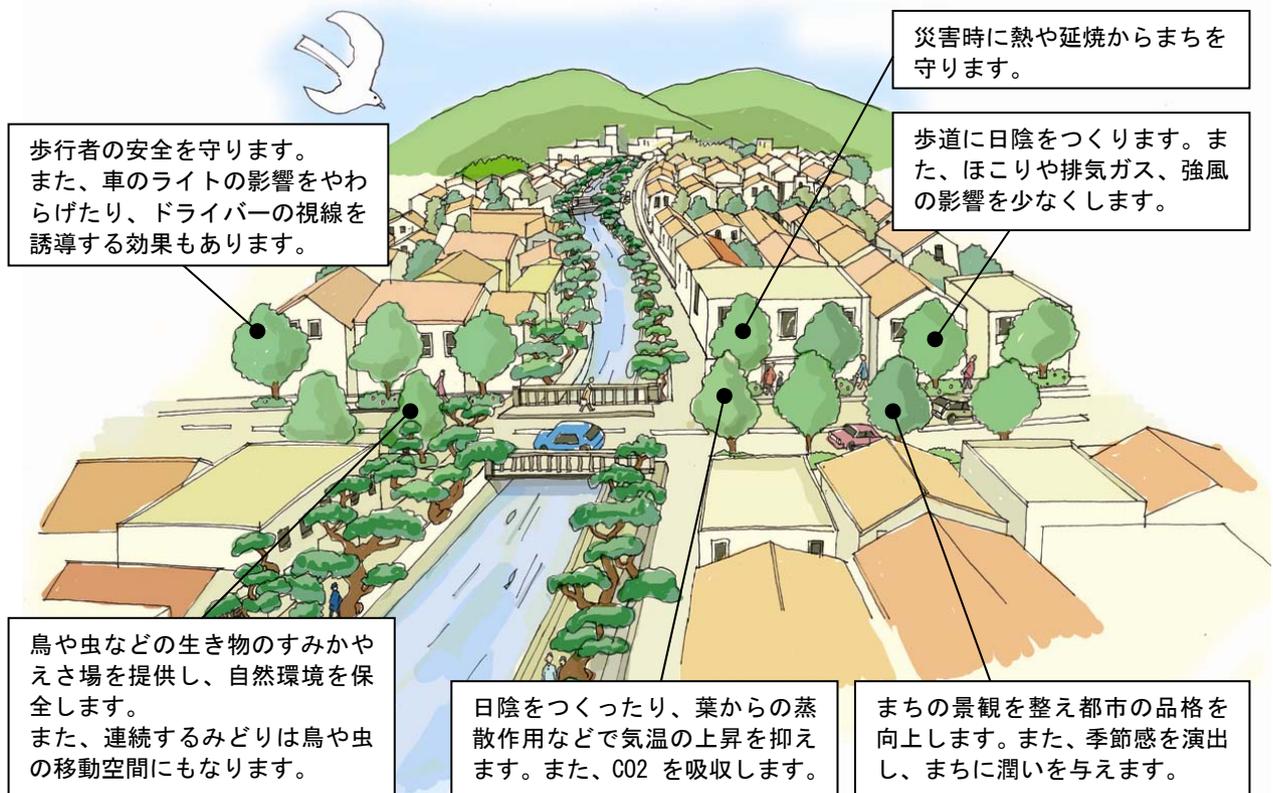
みどりがあることで、まちに鳥や虫がやってくるなど、生態系を豊かにします。

○防災の役割を果たします

防風や延焼防止に役立ったり、沿道の建物が倒れてくるのを防ぎます。

○ヒートアイランドやCO2削減に効果があります

路面の温度上昇をやわらげCO2を吸着します



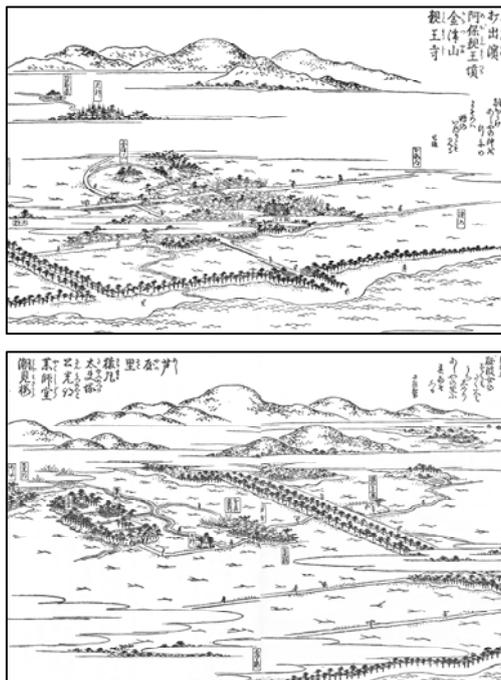
2. 芦屋の街路樹

日本の街路樹の歴史は古く、奈良時代には五畿七道の駅路に果樹を植えたとの記録もあります。江戸時代には参道並木や街道並木が整備されました。

摂津名所図会（第七巻 [寛政8 (1796)年]）をみると、芦屋では街道沿いや川沿いの並木が見られます。特に緑の松のある風景は松浜町や松ノ内町の町名にもなっているなど、芦屋に根付いたものとなっていますね。

明治に入ると、今のような街中の街路樹が整備されはじめます。芦屋でも、昭和10年（1935年）には、業平橋までの川沿いに約400本もの松が植えられ、松並木を復元しました。また、昭和20年代には業平橋より上流に市民の寄付によってサクラが植えられました。

その後、道路沿いの街路樹だけでなく、緑道も整備され、緑を楽しめるみちが増えました。



市内の街路樹

樹木には落葉樹と常緑樹があります。落葉樹は、秋の紅葉や夏の緑陰など季節ごとに姿を変えることが特徴です。一方、常緑樹は一年を通じて緑豊かなまちなみをつくります。

街路樹には、落葉樹・常緑樹のどちらも用いられますが、一般的に「環境に強く」「姿が美しい」樹木が適しています。芦屋市では、次のような街路樹が見られます。

■ 市内でみられる代表的な街路樹

○芦屋市の木「クロマツ」〔常緑針葉樹／マツ科〕

市の木として、芦屋市らしい景観をつくる樹木です。樹形が特徴的で並木となることで、特徴的な道路景観をつくります

○秋にはまちを美しく彩る「イチョウ」〔落葉高木／イチョウ科〕

ギンナンが実ることで有名な樹木です。

整った円錐形の樹木で、秋には美しい黄葉をみせてくれます。銀杏が実るのは雌の木です。

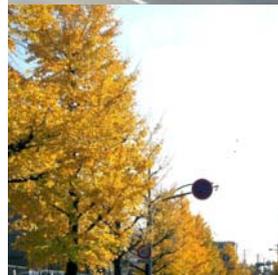
○市民に愛される花木「サクラ」〔落葉高木／バラ科〕

春には薄ピンクの花をいっぱい咲かせます。

代表的な品種である「ソメイヨシノ」は、市内でも街路樹としてよく使われています。

○美しくやわらかな雰囲気の人気「ケヤキ」〔落葉高木／ニレ科〕

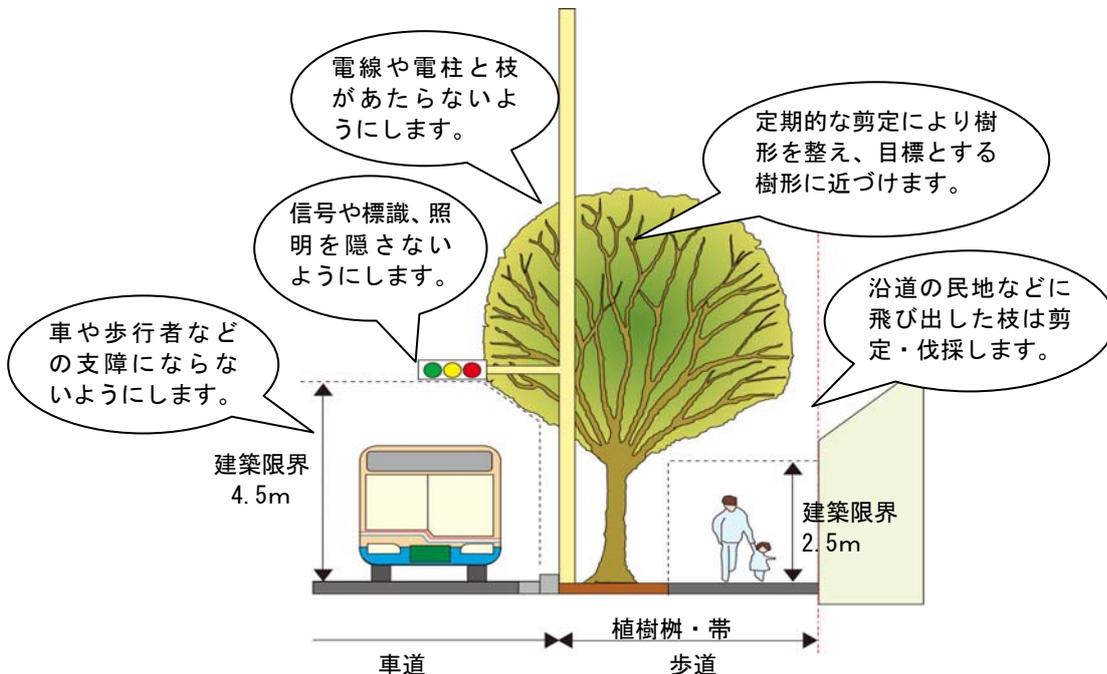
樹姿の美しい木で、夏にはさわやかな緑のトンネルをつくります。また、秋には美しく紅葉します。



3. 街路樹の管理

街路樹は、法律上、道路標識等と同じ道路の付属物として位置づけられています。

道路は、車両や歩行者などの支障にならないように、一定の空間（建築限界）を保つように定められており、街路樹もそのルールの中で管理されています。



街路樹管理の基本的な考え方

街路樹の管理は、道路の機能を確保するとともに、樹木が健全に育つように、また、美しいまちなみをつくるために行われます。

管理には、主に、剪定や除草、病虫害防除、施肥などの作業があります。

また、樹齢が30年を過ぎると大木化による歩道の段差や腐朽菌による倒木が多くなるため、樹木更新を行います。

◆剪定の基本的な考え方

(樹形を整える剪定)

定期的な剪定により自然樹形を生かしながらバランス良く、コンパクトに整えます。また、剪定後に回復してくる枝葉の伸び方を予測し、目標とする樹形に戻るように行います。

(障害となる枝の剪定)

沿道の民地などに飛び出した枝や信号・標識・照明を隠してしまうような枝、架空線に接触する枝については剪定、伐採します。

(枯れた枝などの撤去)

枯れた樹木や倒れる恐れのある木は撤去します。

(適期に行います)

枝葉を切り落とすことは、樹木にとってもストレスとなるので、負担の少ない時期に行います。

◆樹木更新は、道路全体の樹木入替と老朽木の部分入替を行います。

道路全体の樹木入替のときは、樹種についても地域と協議しながら行います。

